

● いがらっぽい、乾きやすい

炎症による乾燥感や、唾液の分泌が減る病氣、腫瘍などの治療中に起こることもある
(咽喉炎、喉頭炎、糖尿病、腫瘍治療など)

● せき

気管支炎によるせきは、かぜの代表的な症状であるが、声門より上に腫瘍があるときも、のどに異物感があつたり、せきが出たりする
(気管支炎、喉頭がん、気管・気管支異物など)

● 声がかすれる

かぜによる炎症や大声を出しすぎた後にも起こるが、声帯の腫れ、声帯を動かす神経の麻痺によってしわがれ声になることもある。喉頭の腫瘍による場合もあるので、続く場合は要注意
(喉頭炎、声帯ポリープ、声帯結節、声門がんなど)

● かゆい

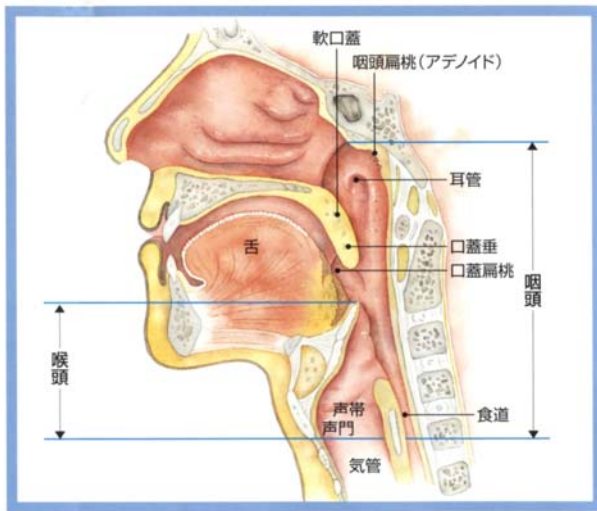
アレルギーの一種と考えられており、食べ物や花粉など多くの原因がある。アレルギー性鼻炎の人に多いといわれる
(喉頭アレルギー)

● 異物感

炎症や腫瘍があると起こりやすいものの、検査しても異常の見つからない、神経性のものもある
(咽喉炎、扁桃炎、声帯炎、声帯ポリープ、腫瘍など)

● 痛い

かぜのウイルスや細菌による炎症のウイロなど痛みかたや、ほかにも症状があるかチェックする。
が原因で起こる。どこが痛い、何をすると痛い、何もしなくても痛
(咽喉炎、扁桃炎、喉頭炎)



● 飲み込みにくい

痛くて飲み込みにくい場合や、喉頭や食道の腫瘍が大きくて食べ物がかえる場合がある。心因性や神経性的のもあり、高齢者では食物が気管に入ってしまうことが多く、とくに寝たきり老人では危険である
(咽喉炎、扁桃炎、咽頭や食道の腫瘍、拒食症、脳血管障害などによる嚥嚥など)

● 腫れる

炎症によることが多く、痛むこともある。耳の下のリンパ腺が腫れているために、のどが腫れて見えるときもある。食道炎や心因性的なものなど、腫れを引き起こす病氣は多いので、状態をきちんと伝える。アレルギー反応であるアナフィラキシーショックでは、急激に声門が腫れて息がつかまる。原因は薬、ソバ、ハチなどが有名
(咽喉炎、扁桃炎、甲状腺腫、転移がん、アナフィラキシーショックなど)

● 息苦しい

声門がしまりつばなしになったり、空気の通り道をふさぐようなできものがあると起こる
(声帯マヒ、喉頭腫瘍、喉頭外傷など)

● いびき

鼻咽腔に原因があることが多いが、子どもではアデノイド肥大、成人ではあお向けに寝たときに口蓋垂や舌の付け根が重力で下がって気道がふさがり、いびき音になる。軽いいびきは誰にも起こり病氣ではないが、いびきをかいている時は一時的に呼吸が止まるので、たびたび起こると倦怠感や集中力の低下につながる。心臓病や不整脈を起こすこともあるので治療を要する
(鼻中隔彎曲症、鼻茸、副鼻腔炎、扁桃肥大、アデノイド増殖症、肥満、酒・睡眠薬による筋肉のゆるみなど)

食べ物と空気を一瞬にして振り分ける「のど」、声を出すのも「のど」です。高度な働きを持っているだけに、トラブルもたびたび起こります。急に起こった時や、長引く時、繰り返すような時には、とくに要注意です。放っておかず、受診しましょう。